

## 「スポーツと平和」の国際会議のイメージ

### 1 広島開催の意義

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に、平和の祭典でもある。こうした理想を実現するため、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う被爆地広島から、スポーツを通じた国際的な平和・友好のメッセージを発信することは、世界平和を目指すオリンピック・ムーブメントの推進に大きく貢献する。

### 2 会議の位置づけ等

- (1) **位置づけ** 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「2020年東京大会」)に向けた文化庁の取り組む文化プログラム(文化力プロジェクト(仮称))として実施  
2020年には被爆75周年の節目を迎え、記念事業の柱として実施
- (2) **主催等** 広島市・広島県の主催とし、文部科学省(文化庁)、スポーツ庁、JOC、日本体育協会、オリンピック組織委員会、長崎市、地元経済界等への協力を要請する。
- (3) **開催時期** 2019年:2020年東京大会のプレイベントとして実施  
2020年8月:オリンピックとパラリンピックの間に実施

### 3 内容

#### 《方針のイメージ》

- ・シンポジウムにおいては、「(仮)スポーツと平和の宣言」を採択し、世界へ発信する。
- ・2020年東京大会以降、一過性のものとして終わらせず、未来に残す遺産(レガシー)として後世へ継ぐものとして定期的(例えば4年毎)に国際会議を開催する。」

#### (1)プログラム案

◆基調講演+パネルディスカッション+スポーツイベント+(記念植樹)

◆基調講演

#### ア IOC委員で平和に造詣の深い委員

##### ・モナコのアルベール2世(モナコ大公)

※広島市長に案内状:アルベール2世公が後援する非営利団体の「Peace and Sport」(平和とスポーツのための組織)は、毎年モナコで「平和とスポーツ国際フォーラム」を開催し、スポーツの主導的活動を通じて平和に貢献された最善事例を表彰。平和首長会議会長(広島市長)に毎年開催案内がある。

##### ・シャイク・アーマド・ファハド=サバーハ王子(クエート)

※広島アジア競技大会の功労者(父のシャイク・ファハドには、1987年に広島市の「特別名誉市民」の称号を贈っている。)

#### イ ノーベル平和賞受賞者

※2010年に本市で「ノーベル平和賞受賞者世界サミット」を開催した。

#### ウ トップアスリートで平和活動を行っている者(海外メダリスト、トップアスリートほか)

#### エ 国連等の関係者(事務総長ほか)



## ◆パネルディスカッション

IOC委員、海外・国内メダリスト、海外・国内プロスポーツ（現役問わず）、広島縁のスポーツ関係者、平和の関係者、広島市長、広島県知事ほか

## ◆スポーツイベント

トップアスリート等を招いて、市民等と触れあうスポーツイベントを開催する。

- ・海外メダリスト（例：陸上選手の場合、市民とのふれあいスポーツ大会開催、平和マラソンに参加）
- ・トップアスリート（例：サッカーや野球の親善試合開催（ピースナイター））

## (2) 原爆死没者慰霊碑の参拝等

IOC委員、参加者等に、原爆死没者慰霊碑への参拝・献花、平和記念資料館の見学や被爆体験証言の聴講を通じて被爆者の体験や平和への思いを共有していただく。

## 4 連携の検討

## (1) 平和首長会議と連携

2020年に第10回平和首長会議総会が広島で開催される予定であり、連携を図る。

## (2) 長崎市との連携

長崎市と連携した「被爆75周年記念事業」の実施

## (3) その他の文化イベントと連携

- ア 神楽等伝統芸能の提供
- イ 広島湾クルーズを活用した会議 など



## 5 オリンピックレガシーの継承

オリンピックレガシーとして、定期的実施(4年毎)することで、国籍や人種、宗教を超え、核兵器廃絶に向けた国際世論の拡大を後押しし、2020年東京大会を通じた「核兵器のない平和な世界」の実現への道を拓くとともに次世代にこれを継承していく。

